



幕末維新書留

慶應三年八月十二日

三十一

服部文庫  
イ 17  
2189  
44

















同文言

同四内郡 兼以村名并村

松手古平元

同文言

同四郡 群 兼以村名并村

古井大炊野

同文言

武藏国 兼以村名并村

本多能定

同文言

同四郡 兼以村名并村

大岡主信正

同文言

同四郡 兼以村名并村

戸田在門守

同文言

同四郡 兼以村名并村

米津伊勢守

同文言

同四郡 兼以村名并村

井上辰美丸

同文言

同四郡 兼以村名并村

大九面六月三日抄

同昔宅 兼以村名并村

漢口主信正

漢口伊織

穴窪田平信清

大宮藩 兼以村名并村

八月 抄抄改

松平公督 兼以村名并村







實子下銘七生七而亦來中... 實七回那出生業... 有之... 之度... 下... 土... 之... 以上

八月七日

久世七重了

英國士互通并友外附屬之老兼支那令... 大... 川下... 以上

七月七日

八月七日

例年獻仕... 八月十日... 向... 清水... 以上

八月七日

清水小善法支配

八月十日 扣... 向... 清水小善法支配



如何業有之執相以之辛勤免法及山等法中什也  
右之通中法也戸田長也孫井甲也下之漢也

京都見廻  
武井五郎

山納方下海高申付也

山納方下

沖田池五郎

金子家治市

沖田池五郎  
金子家治市

同文  
六月十日

月言知所深也去年支化之有亦并好亦も海久

六角主税

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程

日言或存同法玉形是上子子林打

大田修程



日文言 山田村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

日 旗本村

山田村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村

旗本村



日又言若若り上野國縣基郡中鴻書 由軍中力進文記

後合特田中用言上野國仰りる中其の事

陸軍奉行無事 陸軍奉行無事文記

山田六郎左衛門

日又言若若り上野國縣基郡中鴻書

六月十日抄

陸軍奉行無事 陸軍奉行無事

右方を振別之証意也云云未定用西丸知事自之云云由之云云  
手付多和行也云云依此云云情無之云云容易難仰り  
勿論之云云其云云内用也云云其云云其云云其云云其云云  
十有日自之抄也云云証意云云其云云其云云其云云其云云  
高方之難也云云  
秘依也云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云  
其抄之云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云

用墨書は返片は其口在八力十百

外抄

坂田之云云 佐井右衛門云云

此方依此是云云其進難云云其云云其云云其云云其云云其云云  
度中抄之仰り云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云  
其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云

佛蘭西之云云其用字之云云其地要之云云其復之云云

一 抄本抄和云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云

林東附

一 序之云云依白後甲上府之云云其云云其云云其云云其云云其云云  
一 一 序之云云仰り云云  
一 一 序之云云上野國仰りる中其の事  
一 一 序之云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云  
一 一 序之云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云其云云



私... 市... 後... 及... 多... 清... 中... 什... 样... 礼... 不... 行... 在  
市... 位... 輝... 教... 手... 拜... 三... 信... 入... 教... 通... 高... 山... 自... 東... 運... 通... 全... 什... 今  
十... 年... 市... 位... 輝... 教... 白... 銀... 以... 救... 社... 信... 拜... 礼... 什... 什... 什... 什... 在  
P-2-4

七月二十日

成... 年... 人... 心

一... 里... 山... 白... 市... 聖... 湖... 松... 平... 初... 相... 也... 何... 自... 台... 今... 全... 寺  
東... 經... 手... 也... 行... 寺

一... 本... 所... 據... 須... 實... 教... 政... 不... 聖... 法... 義... 和... 高... 亦... 不... 足... 厚... 亦... 未... 人... 教... 整  
米... 津... 丹... 後... 寺

法... 在... 中... 所... 疾... 病... 氣... 血... 保... 長... 陰... 陽... 週... 迴... 之... 氣... 賦... 性... 於... 靈... 心... 也... 故... 此... 經... 云...  
竟... 此... 經... 云... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
書... 有... 此... 經... 云... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
漸... 入... 冥... 矣... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
九月

九月二十日

松... 平... 加... 聖... 寺... 心

多... 田... 經... 心

一... 卷... 文... 書... 聖... 經... 心... 橫... 胸... 滿... 也... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
全... 使... 之... 經... 云... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
未... 經... 此... 經... 云... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...  
切... 原... 亦... 聖... 經... 云... 凡... 有... 此... 止... 者... 任... 是... 何... 節... 亦... 若... 病... 氣... 血... 不... 行... 則... 此... 經... 遂... 中...



































九月十五日所定

長崎奉行

河津信直

別院詰之末勘定奉行 松平信守

九月廿五日抄

一 本番奉行大砲流之御届之<sup>無</sup>藏今般宿御之<sup>無</sup>由  
中身之御届迄<sup>無</sup>田浦迄<sup>無</sup>相取明<sup>無</sup>換<sup>無</sup>之<sup>無</sup>蓋氣<sup>無</sup>御<sup>無</sup>船<sup>無</sup>  
大坂表<sup>無</sup>進<sup>無</sup>進<sup>無</sup>付<sup>無</sup>柄<sup>無</sup>之<sup>無</sup>付<sup>無</sup>以<sup>無</sup>候<sup>無</sup>申<sup>無</sup>之<sup>無</sup>上<sup>無</sup>

牧野豊左衛門

永井又兵衛

九月廿五日 別紙

覺

一 大砲

三門

但附戸

一 小銃

百七槍曲銃

一 銃管直銃

臺組

一 大砲洋

御台

御式宗方具類

右ノ由<sup>無</sup>五<sup>無</sup>座<sup>無</sup>迄<sup>無</sup>上<sup>無</sup>

九月廿五日

九月廿五日

御臺之御祭捕

向後御料之御奉行<sup>無</sup>後全<sup>無</sup>本年<sup>無</sup>由<sup>無</sup>上<sup>無</sup>迄<sup>無</sup>以<sup>無</sup>原<sup>無</sup>由<sup>無</sup>先<sup>無</sup>御<sup>無</sup>祭<sup>無</sup>  
御奉行<sup>無</sup>三<sup>無</sup>下<sup>無</sup>一<sup>無</sup>上<sup>無</sup>未<sup>無</sup>辰<sup>無</sup>年<sup>無</sup>分<sup>無</sup>三<sup>無</sup>月<sup>無</sup>六<sup>無</sup>日<sup>無</sup>九月<sup>無</sup>十日<sup>無</sup>

御奉行<sup>無</sup>三<sup>無</sup>下<sup>無</sup>一<sup>無</sup>上<sup>無</sup>未<sup>無</sup>辰<sup>無</sup>年<sup>無</sup>分<sup>無</sup>三<sup>無</sup>月<sup>無</sup>六<sup>無</sup>日<sup>無</sup>九月<sup>無</sup>十日<sup>無</sup>



下

向後山... 戊午年... 九月... 有...

漢師... 也

海... 師

陸軍... 海軍... 師... 也

庫... 也

庫... 也

抄...

也

也

向後... 也

海軍... 也

也



右由千在馬場西、極其先下座敷、義行別出、西馬場外  
其より古殿より、西馬場より、之れ也  
九月廿二日、付由

陰謀あり並  
介無あり並  
大目付  
町あり  
比勤あり

九月廿七日 於京朝相連、之れ也



御加湯免、之れ容易難、御美、山海、今度、物列、  
其れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、  
信、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、  
之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、之れ、

九月廿七日

一 松葉、徳由、子業、以、高、御、平、之、之、之、之、之、之、  
此、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

九月廿七日  
十月廿五日  
同日附記  
之れ、之れ、

松平、之れ、之れ、

服部文庫  
117  
1282  
8184

9-10月



















所升之清乃家作之山也

十月

十月九日

十月十日

十月十一日

十月十二日

十月十三日

十月十四日

十月十五日

十月十六日

十月十七日

十月十八日

十月十九日

十月二十日

十月二十一日

十月二十二日

十月二十三日

十月二十四日

十月二十五日

十月二十六日

十月二十七日

十月二十八日

十月二十九日

十月三十日

十一月一日

十一月二日

十一月三日

十一月四日

十一月五日



















十二月九日出給上京報

傳所新合書の字

と申す事多し何と云ふ人の不徳は身先給多法に處て是  
事不存字を進出人事に付るを 新帝 法幼君に之る位  
上下の二國を輔張の方で尚之れは命公儀を存し仙心  
大曲守御行を張り事多を維持し是及昇平に往化子  
板面多決て勤仕る

吾事法用掛り一回々隔意中淡然勤て居り  
但吾事法用向糧石の外

一友多く句去建らく美を従るも役占て居出給事

尤何て不寄法建ら言ハ支多句く為る奏天女厚心掛法用

至尚明言く理り為高て了出我之定強張り吾事及

一武家建らく美を物と経其節武侍く下出事

服部文庫  
117  
1291  
20185



一武仍分兵了建屋通親族之故亦其他之清原所不恨了  
面等不亦亦く事

一馬為公帥中造確決乃其美無明之義新別其弟姓名不遊  
尾高与明人注記遠近以狐疑二款以義古不其採用小軍之注記出  
通名名急度之相之事

一三義馬決之入後日天論中言事承事

一外夷之義事以位坐乃其共二作年十月終又法執一處之上前所

二其年法事殿之急度相立候之思五右邊之相違不亦亦事

一乃大分中言其子宣相初不し公帥之採用事

一乃多京石之を用い十分之候論を不加候事

并白月

一三月廿分馬福幸く事

一公及公領為事為持口由地人教之其生付能田川七集人教

は彼を回事か之り一防我之上人教據引二時彼本日西邊入也

事同不七集人教之功御事之候事

在乃系行水之馬奉公帥之義守候之如少處才候之明後晦日迄

其子入取之口言中出候

否入赴早之之相觸候十二日廿分

一十月廿分於中言其長人女中座之他厚法坊海月井上孫若子川

首君世下孫三郎光田三郎は中野之候三浦作左馬淡判出彼

無然之途取法在乃相觸其別儀守之先給之者中法直也之候

中事之馬也事之也切去其候之馬乃内法性之其妻細而夫其後

之乃了候法事其馬内法守執候之其法破淡守以度法其後上

白子占事由至之赴候之其始之入中其付之其法族老少之向所登



此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒... 此法實甚以不忍之傷氣之毒...

彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中... 彼無法強中...

法合難中

彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名... 彼無至極法名...

王自其公夫人相送書面

社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急... 社稷危急...







炭く若投ゆ方弘和友因定能予言之見込也喜上以悔悟  
依入幸深不之及之我重之改陳備出兵不決定之  
土月廿六

書判

年利能年少根

名利能年少根

備 鞠力之根

光武帝 統仁天皇

仁孝天皇 皇太子

陳誕天保二年卯年六月十日

之親王 日二年九月十日

皇太子 日十一年三月十日

元服 日十五年三月十日

淡祚 弘化三年二月十日

白居日 丙辰 大嘗年十一年十月十日

如妃世孫 從三位藤原子左大臣九条当志云女

崩御 延喜二年丙寅十月十日

表白中 散古丸辰刻

一山陵 延喜廿九年庚 合誌序系行十月十日 止序車之山陵之役所

一止 倉前寺 延喜廿九年 序車會

一傍 盧波 序車月十日 序車會

一序列 中 延喜廿九年 桃城

序新 德賢 陸 藤 稚子

服部文庫  
117  
1360

117. 1360











